

# 新型二足歩行ロボットキット 「KHR-3HV」レビュー

先代の「KHR-2HV」から3年、2009年7月17日に出荷が開始された近藤科学製の新ロボットキット「KHR-3HV」。一部のケーブルガイド以外、すべて新設計という製品だが、今回はそのハードウェアを中心に取り上げる。 祥 みきお

## まずはざっとスペック

およそ1ヶ月前に出荷が開始されたため、すでに手元に「KHR-3HV（以下、3HV）」がある読者もいるかもしれないが、まずはキットの概要をお伝えしよう。

全身で17軸の可動軸を持つ二足歩行ロボットキットで、価格はオープン価格（実勢価格11万9700円）。コントロールボードとして新製品のRCB-4HVが付属。また、各軸のサーボモーターには新設計のシリアル専用サーボモーター・KRS-2552HVを採用している。完成サイズは401.05（H）×194.4（W）×129mm（D）。重量は実測で1475g（バッテリー含む）。付属のバッテリーは10.8V-800mAh。



かなり深くかがみ込むことができる。

## 身長は高く、全体的に細身に

3HVは、初代「KHR-1（2004年6月発売）」、そして「KHR-2HV（2006年6月発売。以下、2HV）」と受け継がれた、“KHRシリーズ”の象徴的な部分を大胆に変更した、まさにフルモデルチェンジと言えるモデルになっている。

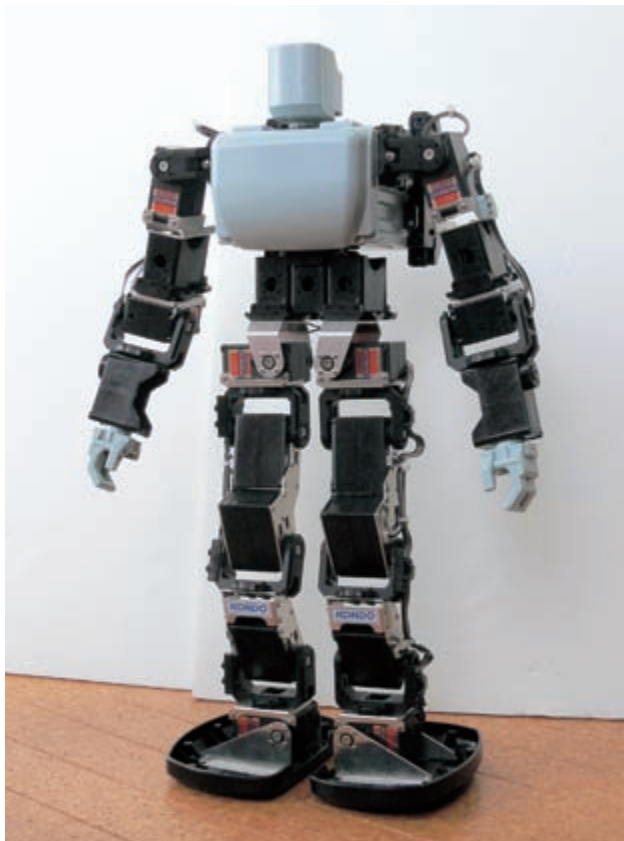
ぱっと見てわか

るのが、腰と腕に配置された“ダミーサーボ”だ。KHR-1や2HVの場合、可動軸を増やすとシルエットそのものが変わってしまい、モーションの修正が必要だった。象徴的なのは2HVの上位機種として登場した「KHR-1HV（2006年12月発売）」だろう。足の付け根にヨー軸を設けるためにボディフレームをほぼ総交換したことで胴体サイズや強度が変わってしまい、豊富に用意された2HV用のサンプルモーションが活かせない結果となった。

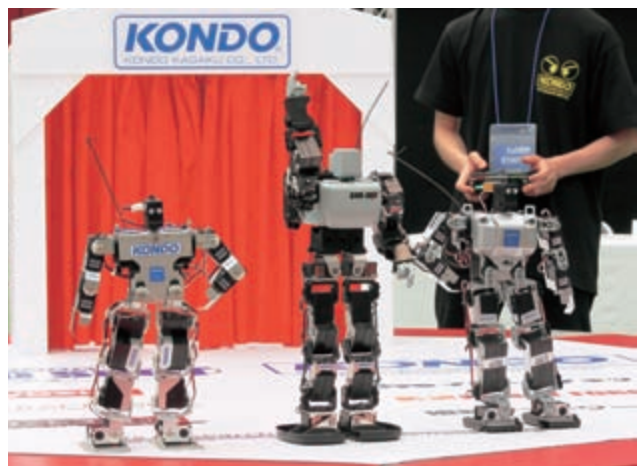
今回の3HVは、可動軸を増やす場所として「肘のヨー軸×2」「肘から先×2」「足のヨー軸×2」「胴体のヨー軸×1」の5軸を想定し、その部分にあらかじめダミーサーボが組み込まれている。ダミーサーボ単体の重量は実測で11gと、サーボモーター（KRS-2552HV：実測42g）とは差



ダミーサーボ。標準装備されているサーボモーター（KRS-2552HV）にサーボホーンを取り付けたものと同じサイズ。



KHR-3HV。



3世代が同時に登場するデモを公開した記者発表会。